

# ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '87 4月号

## 4月の行事

おかげさまで入館者100万人を突破しました。

### 4月

10	金	星を見る会(月見よう) 18~20時
11	土	土曜観察会(自然の新聞づくり)
"		石仏を調べる会(ガイダンス)
12	日	自然観察会(曾我山)
18	土	天体観察会ガイダンス(科学教室)
19	日	相模川を歩く会ガイダンス
25	土	土曜観察会(自然の新聞づくり)
"		石仏を調べる会(横内地区)

### 継続行事

- 8日(水)まで: 第1回平塚市博物館公募写真展(特別展示室)  
・1~29: 新資料収蔵展  
(寄贈品コーナー)  
2~26: プラネットリウム「平塚の太陽」

### 5月

2	土	古文書講読会
9	土	土曜観察会(自然の新聞づくり)
"		石仏を調べる会
10	日	体験学習(ゾクリつくり)

### 継続行事

- 1~30 歴史部門(

### ○古文書講読会

近世(江戸時代)文書の読み方を学びながら、地域の歴史を知ろう。

日時: 毎月第1・第3土曜日の14~16時。

場所: 博物館講堂

申込み: 高校生以上、4月20日までに往復ハガキで。定員30名です。

### ○体験学習「ぞうり」を作ろう

稻ワラを使ってワラゾウリを作ってはいてみます。

日時: 5月10日(日)午前10時~午後3時

場所: 博物館科学教室

定員: 20名(申し込み多数の場合は抽選)

申し込み: 4月30日までに往復ハガキで。

### ○ようちえん向け投影

6月16日~7月9日の金曜を除く平日に、ようちえん団体向けのプラネットリウム投影をします。観覧の予約とお問い合わせは博物館管理係まで

蓬団子を作って仏壇に供える

15日: 駒形神社(丸島)の祭礼

中~下旬: 田の一一番ウナイ。5月中旬に2番ウナイ。

下旬: 田起し、苗代播種が始まる。播種の残りを焼米にして皿にのせ、苗代の水口に供える。これに大豆を二つ割りにしたのを加えて、おやつや5月節供のお茶受けにした。

## 暮らしの暦

8日: 祀迦の誕生会 甘茶を貰って目をこすると眼病が治る。甘茶で墨をすり「千早振る卯月8日は吉日よ。神下げ虫を成敗をする」と書いて戸口に貼ておくと、悪い虫が入らない。

八幡神社境内の天王社(八坂神社)の祭り

いま、プラネタリウムでは・・・

# 平塚の太陽

3月と4月のプラネタリウムの話題は、「平塚の太陽」です。太陽からやって来る光と熱は毎分1平方センチあたり2カロリー。地球をあたためる太陽エネルギーです。でも、地上では季節の変化のあるところ、常夏のところ地面をほると、いつも凍りついたところ、と一様ではありません。平塚での太陽の変化を見ながら、太陽が照らす地球のようすをながめてみましょう。



夏至の日ざし

## 太陽のうごき

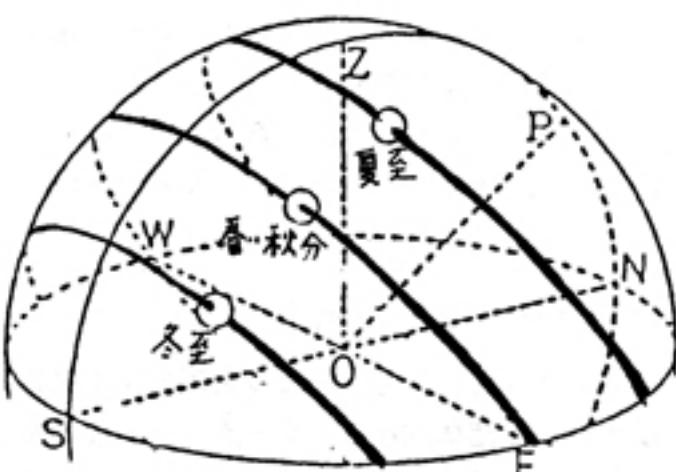
まず平塚の太陽のうごきを見てみましょう。太陽は、朝、東から昇り、昼、南の空を通り、夕方西の地平線に沈みます。毎日毎日、同じようにくり返していますが、太陽がいちばん低く通る時を「冬至」(とうじ)といい、いちばん高く通る時を「夏至」(げし)といい、冬至から夏至へ向か

## 太陽と星のうごき

プラネタリウムでは、星のうごきを目でわかるように早くして見せることができます。本当は、24時間ほどでひとまわりする星空のうごきを、数分に縮めて見れるのです。今回はその星空のうごきの中に、太陽のうごきの経路を重ねてみました。すると、太陽のうごきが星空のうごきと同じことがわかるのです。太陽も星と同じうごきをしているのです。しかし、星や星座は季節によって出る方向がかわったり、南の空で高さが変わったりはしません。太陽が季節によって経路が変わってゆく理由は、プラネタリウムの空に写し出される太陽のもう一つの通り道、「黄道」(こうどう)をよく見てください。プラネタリウムで見る黄道はカレンダーのようになっています。点線の点ひとつが一日を表わしています。この黄道上を太陽が西から東に一日に一点ずつ動くのです。

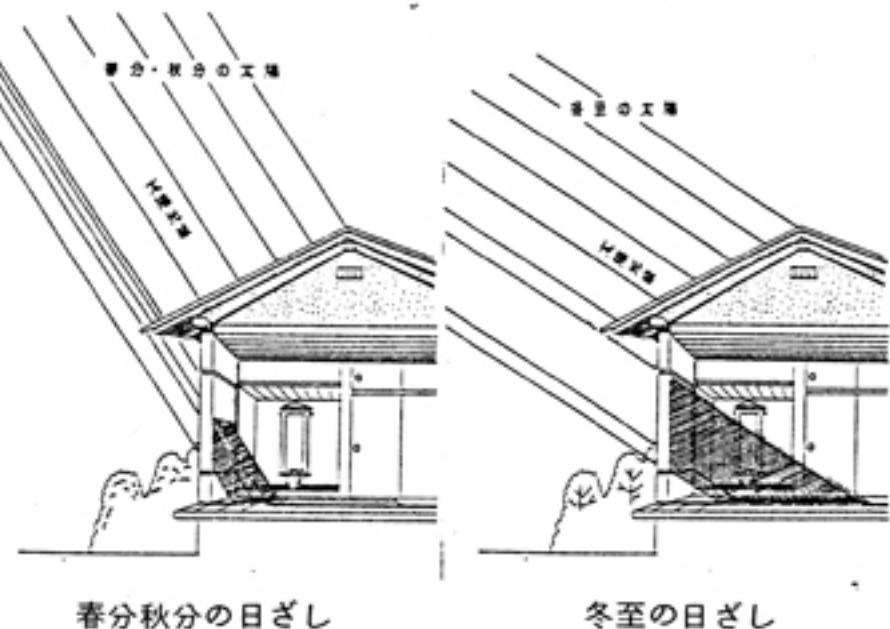
6月22日(夏至)には、太陽のいちばん高い経路に接し、9月23日にはまん中を通る経路を横切り、12月22日には、いちばん低い経路に接しています。季節によって太陽の一日の経路がちがってくるのは、黄道上を太陽が少しづつ動いていくからなのです。(本当は、地球が太陽のまわりをまわっているからなのですが……。)

平塚での太陽の高さはこんな理由で決まってくるのです。お昼には必ず頭のまえに太陽が来てる、なんて思っていませんでしたか?



太陽の日周経路

う中ほどを春分(しゅんぶん)、夏至から冬至へ向かう中ほどを秋分(しゅうぶん)といいます。太陽が通る経路は、上の図のように、冬至は南より、春分・秋分はま東からま西へ、夏至は北よりのコースです。太陽は冬至と夏至の通り道ではさまれたところを1年かけてゆっくりと移動してゆきます。



春分・秋分の日ざし

冬至の日ざし

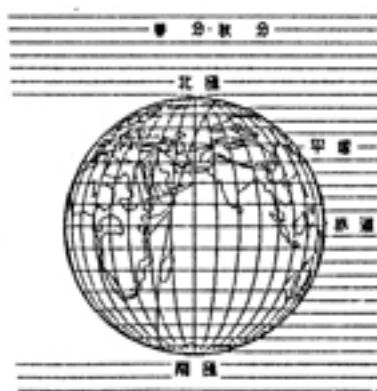
### 日ざしの変化

1日の太陽のうごきでわかるように、太陽の高さによって日ざしや日かけは変わってきます。上の図からそれぞれの季節で、日ざしがずい分ちがうのがわかります。夏至の太陽は78度、春分・秋分の太陽は55度、冬至の太陽は31度という角度でさしてきます。冬は日ざしが部屋の奥まで入ってきてあたたかく感じますが、そのかわり北側には長い影ができます。

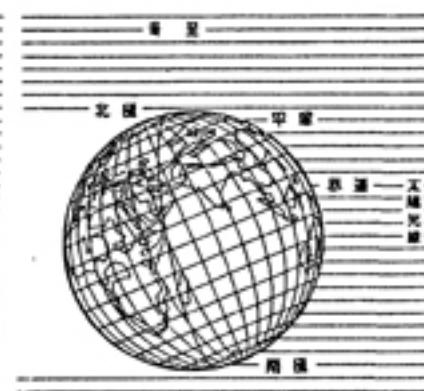
日ざしは、夏に強く冬は弱く感じますが、太陽が高いほどエネルギーが強いのです。



夏至の地球



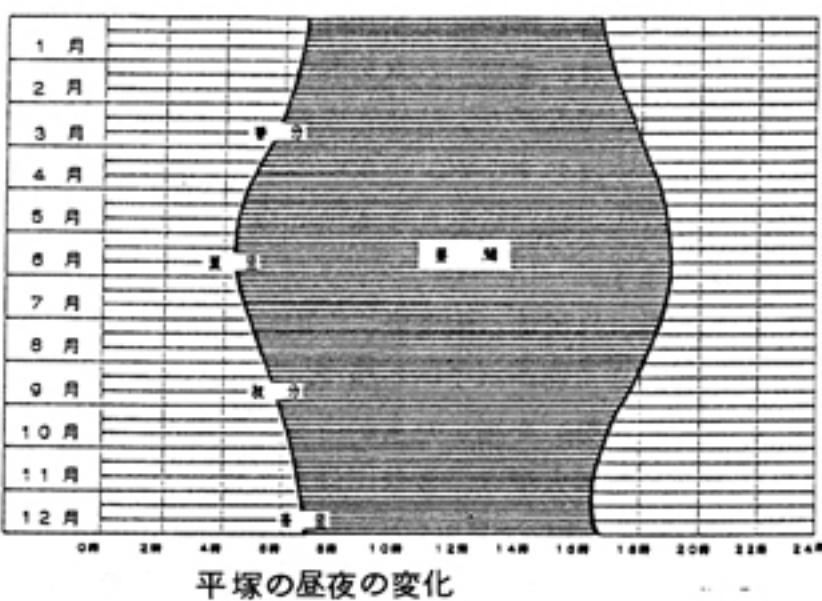
春分・秋分の地球



冬至の地球

### 平塚の太陽

右の図は一年間の平塚の昼と夜の長さをくらべたものです。太陽は季節によって通る道すじを変え、照る高さもえていきますが、それによって昼の長さも変わってくるのです。太陽が高い経路をたどる夏は、夏至を中心に昼が長くなり、一番長い夏至の日は昼が15時間にもなります。春分・秋分では、昼と夜がちょうど半々の12時間。冬は昼が短くなっています。冬至の頃は昼は9時間ほどになってしまいます。平塚ではこれからだんだん太陽が高く、昼が長くなっていきます。（鷹）



### 地球上では

地球上にあたる日のように見てみましょう。下の図は、それぞれ日本時間12時に赤道上から見た地球です。夏至の頃は、太陽は主に北半球を照らしています。南極のほうに日影がひろがっています。春分・秋分の頃はちょうど赤道上から太陽が照らしているため、地球は日影になっている所はありません。冬至には、太陽は主に南半球を照らす位置になるため、北極のほうに日影がひろがっています。南極や北極では、太陽が一日中照っている時間があったり、全く出でていない時期があったりと大変極端な変化をします。太陽が出てても低いため、日ざしが弱くあたたまりません。それで北極も南極もとても寒い世界となります。反対は赤道近くで、いつでも高い太陽に照らされ、日ざしが強く常夏です。平塚は中くらいの所に位置しており、太陽の高さの変化が大きいため、四季の変化が生まれてきます。赤道をはさんで南半球の中くらいの地域は平塚と四季が反対ですね。



## 水をめぐる生活

\*二階展示コーナー 21

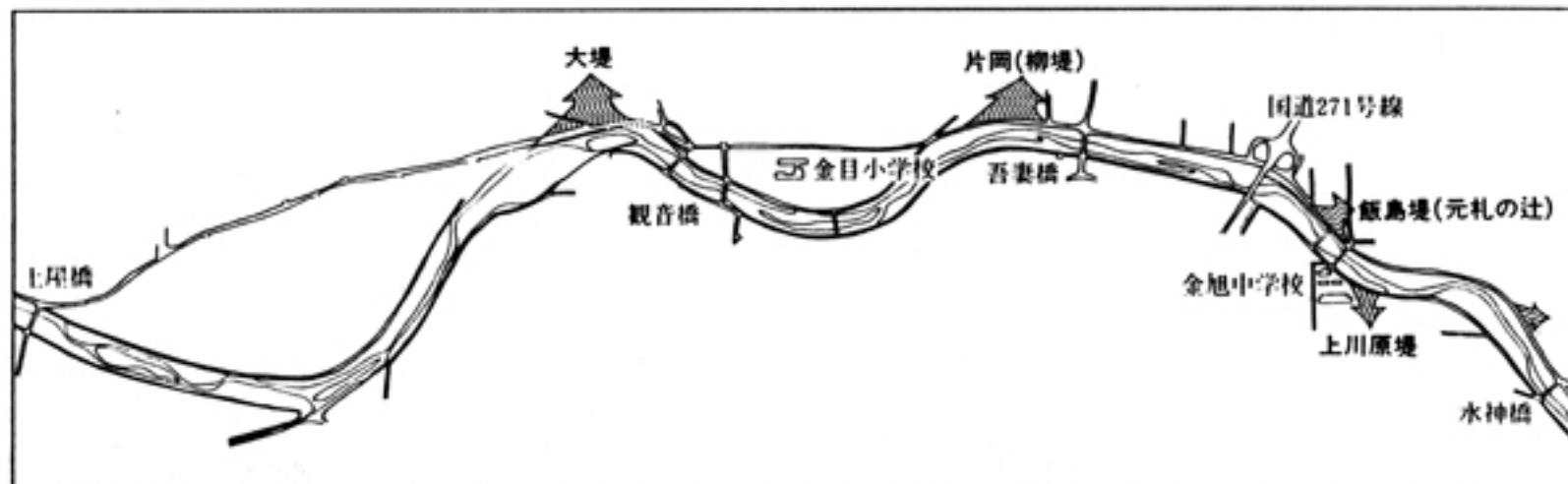
平塚市域に含まれる旧村の大半は、西部の丘陵地帯を除き、沖積地に立地し、広い水田地帯の中に存在します。この地域は、現在も県下有数の穀倉地帯として著名です。

水田稲作には、水は欠くことのできないものですが、その利用をめぐって人びとは、過去に多くの犠牲を払い、その利用のし方を現在に伝えています。水田稲作において、もっとも広く利用されてきたのは金目川の水です。すでに江戸時代初期には、金目川、鈴川、渋田川(玉川)、大根川の

水を利用する村々で構成する水利組合が、さまざまな形で数多く組織され、その数を数えるほどです。川の水は、川に堰を作つて水路にひかれ、さらに各水田に分配されます。水路は地形をうまく利用し、各水田に均一に分配されるよう工夫されています。取水堰は、利用水田面積により、その規模も違い、取水される水の量も違つてきます。

現在では、江戸時代からあつた取水堰のいくつかは統廃合され、その数も少なくなつてきました。

金目川の用水には、五ヶ郷用水、九ヶ郷用水な



### 切れやすい堤防

どのように一つの堰の水が広範囲に使われるものもあり、多く村が共同して堰普請や水番、堀渡いを行うこともめずらしくありません。

こうして利用される金目川の水ですが、他方、金目川は、別に「あばれ川」の異名があるように、大雨が降ると堤防はすぐ切れてしましました。洪水の被害は、金目川の水を利用する多くの村々を巻き込んで広がり、時に人々の生活を根底からくつがえすほどでした。上図をみると過去の歴史から金目川の堤防が切れる場所に幾つかの共通点があります。

大堤、片岡堤、飯島堤、上川原堤のどれもが、川が大きく曲がっている所で、川が大きく曲がる部分に、勢いを増した水が当るからだとされています。特に大堤は、金目川最大の難所であるとい

われ、過去に幾度となくこの堤防は決壊し、その被害は、平塚全市におよぶほどでした。人々は、勢いを増した水が、直接堤防に当たらないようにさまざまな工夫をします。川倉と呼ばれる丈夫な杭木を組んで急な水の流れに入れて、水の流れを弱め、また、流れに対し直角に堤防を築くことさえありました。洪水の被害が、広い範囲におよぶことを防ぐために、水田の中に「控え土手」を築き堤防を越えた水が、控え土手添いに掘られた溝を流れ、溝づたいにもとの川に水を逃がす工夫もしました。

川は、流域の人びとの生活と密接な関係を保ちながら現在もその流れを止めることはできません。どうしたら、よりよい川とのつき合いができるか我々はこれからも考えていかなければなりません。

(土井)

## 昭和62年度

### 展示及び教育普及活動計画表

#### 平塚市博物館

#### 特別展

夏期特別展：7～8月 大山の信仰と歴史

図録発行・講演会

秋期特別展：10月 小田原北条氏文書

春期特別展：3～4月 湘南のシダ植物

#### 寄贈品コーナー

新資料収蔵展：4月 考古部門 6～7月

歴史部門 5月 生物部門 9～10月

考古部門 6～7月

道具の歴史PART3 9～10月

生物部門 11月 民俗部門 2月

民俗部門 12月 考古部門 3月

歴史部門 1月

#### 移動博物館

生物／天文／考古部門 2～3月にかけて市内2

・3ヶ所で開催

#### 各種講座観察会

・古文書講読会 毎月第1・3土曜日 地域に残る  
近世地方文書を読む 年間会員制(高校生以上)

・石仏を調べる会 毎月第2・4土曜日 地域に  
残る石造物の所在を調べる 年間会員制

・相模川を歩く会 毎月1回 河口から水源まで  
の自然と文化を調べる 年間会員制

・自然観察入門講座(生物) 7月  
アリの観察 申込制(4年生以上)

・自然観察入門講座(天文) 8月 中学生以上  
太陽と月の観察

・自然観察会 4月 大磯丘陵の自然をたずねる  
(1)曾我山/6月(2)比奈窪付近/9月(3)

篠窪付近/11月(4)黒岩付近/1月(5)遠  
藤原付近 申込制

・土曜観察会 每月2回土曜日午後 自然の新聞  
作り 準会員制

・みんなで調べよう 第1期4～6月 第2期2  
～3月 平塚のカエル 申込制

・星を見る会 4月 夏休み中3回 10・11・  
1月 月をみよう 月と土星 月と木星 冬の星  
雲・星団など 自由参加

・天体観察会 年間9回 望遠鏡の操作/流星の  
観測/写真観測法など 会員制(高校生以上)

体験学習 5月ぞうりを作ろう/8月土器を作ろ  
う/9月巣箱を作ろう/10月星座早見を作ろう  
/11月紙すきをしよう/12月おかざりを作ろ  
う/3月拓本墨を作ろう

・**プラネタリウム**(一般投影) 4月平塚の太陽/  
5～7月太陽に近い星/7～8月天の川 360度  
9～10月星座ってなんだ/11～12月木星の  
なかまたち/1～2月宇宙への道/3月乙女座の  
世界・毎週土曜日の午後(2回)日曜日の午前(2  
回)/(幼稚園児投影)園児を対象とする星の  
話 毎週火・水・木曜日/(市内小・中学校)  
小学5年生、中学1年生を対象とする投影/毎週  
火・水・木曜日

・**サマーセミナー** 8月 小学5年～中学3年迄  
土屋を探る 2泊3日

・**夏休み自由研究相談会** 7・8月 小学生以上  
夏休みの自由研究相談 2日間

・**博物館実習生の受け入れ** 9月 大学生 博物  
館活動と運営の実際 1週間

#### 〔プラネタリウム案内〕

投 影 日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日		学 校 専 用	
水曜・木曜日		学 校 ・ 団 体 専 用	